

岩手県中央家畜保健衛生所 試験調査レポート

平成22年度

分野：伝染病診断・ウイルス

家畜：牛

担当：八重樫岳司

2010年に流行したアカバネ病の発生状況と特徴

【 目的 】

2010年、県内で25年ぶりに流行したアカバネ病について、過去最大の流行があった1985年と比較し、その特徴を検討しました。

【 成績の概要 】

2010年最初の感染は、県南西部の1酪農場で8月17日に採材した抗体検査で確認され、翌年3月末までに県中部まで95例をアカバネ病と診断しました。症状は起立不能や頭部回旋などの神経症状に続き、10月からは四肢の異常などの体形異常が見られ、2月以降は盲目や水無脳症が確認されました（図1, 2, 表1）。

九州地方で確認されている生後感染例は認められず、検出されたウイルス遺伝子は従前と同じGenogroup IIに属するものでした。

異常産の発生状況等から、8月上旬から10月上旬までが感染時期と推定され、県北部の市町村を除く28市町村で流行が確認されました（表2）。

1985年における流行との類似点は、①両年ともに例年以上の熱暑が長く続いたこと及び②流行時に本県を台風が通過していたことです。これらはベクターの活動を活発化させ、その移動範囲を拡大させる要因となった可能性があります。他方、相違点としては①県北地域の流行（抗体陽転率）が低く、②体形異常が多発する以前（8月下旬から10月中旬）から、新生子牛に非化膿性脳脊髄炎を伴う起立不能が認められたことがあげられました。



区分	発生月							合計
	8	9	10	11	12	1	2	
流死産		2	3			1		6
起立異常	1	10	3	10	7	1	1	33
体形異常		1	10	22	6	3		42
水頭症					1	1	8	14
月別合計	1	12	7	20	30	9	12	95

(8月下旬～3月末)

地域	戸数		頭数	
	検査	陽性 (%)	検査	陽性 (%)
県南	40	27	67.5	209
中央	44	31	70.5	109
県北	30	4	13.3	156
合計	114	62	54.4	287

(図1) 体形異常

(図2) 水無脳症

(表1) 異常産の発生状況

(表2) 浸潤状況

【 成績の活用 】

発生を予防するために、ワクチンの接種は必須であり、一層の啓発が必要です。

ワクチンは、妊娠末期の感染で起立不能子牛が発生していることから、「妊娠牛又は妊娠予定牛の全て」を対象とする必要があります。

2010年に抗体陽転率が低かった県北部地域では、特にも注意が必要です。

【 留意事項・備考 】

2010年のアカバネ病の流行による異常産の発生は、2011年の夏季まで継続することが予想されるため、引き続き、調査を実施する予定です。